

往時を想いながら 若き後輩に一言

牟

岐 鹿 楼

(旧16回生)

私ども、旧16回生は、昭和一六年に入学いたしました。その年二月八日に、日本は米、英、蘭との戦争に突入いたしました。が、中学一、二年の間は穏やかな学生生活を送ることが出来ました。全校生徒が参加する岩手山登山は今でも懐かしく思い出されます。あの登山は、私にとつて元服であったようです。

戦争の進展とともに、軍国式教育が強化されました。そのせいか、上級生が大威張りで、私どもは床の上に正座させられて、ありがたくもない説教を聞かされました。五年生になったら、下級生を正座させてありがたい説教を聞かせてやるんだと思いつつながら我慢して聞いていたのですが、私どもも四年の時、五年生と一緒に卒業することになり、説教の機会は消えてしまいました。

三年に進級した昭和一八年には、戦局はますます悪化し、私どもは夏の始めに八戸の砂鉄鉱山に学徒動員で行きました。露天掘りの鉱山で、トロッコで土砂を運ぶのが私どもの仕事でした。人里離れた所で、広々とした景色と澄んだ空気

が記憶に残っております。秋には盛岡に戻り、しばらく学校に通ったように思います。

次の動員先は、三菱重工業川崎製作所で、私の配属先は、船用エンジンの鋳物工場でした。いつから川崎製作所に行き始めたのか覚えておりませんが、最後の日は昭和二〇年四月一五日です。その晩、一〇時半頃から空襲があり私どもの宿舎は全焼いたしました。幸い、だれも怪我

をせず、全員無事に山中先生の許に集まりました。

UCLAの東洋図書館にある日本の空襲で調べたところ、この晩の空襲に参加したB29は200機、落とされた爆弾は2549個、焼夷弾は75、747個、死者972人、罹災者264、411人とありました。空から落ちてくる焼夷弾が大規模の花火のようで、美しく感じたのを覚えております。

明けて四月一六日の午後、総勢約三〇名山中先生に引率されて麻布の三田理事長宅に伺い、義一理事長、とみ奥様に迎えて頂きました。一同順序に風呂に入り、当時は、貴重品だった白米の御飯をごちそうになってその晩はゆっくり泊めて頂きました。翌日、上野から盛岡に戻って来ました。平成になってから、山中先生のお宅に伺ったとき、震災後三菱側はまだ私どもを引き留めておきたかったのを、交渉の末即日帰省出来るようにしたとお話を伺いました。

私どもは、ちゃんと勉強したのは最初の二年間だけで、あとの二年は、同じ釜の飯を食べな



がら、鉱山や工場で働いてきたので、連帯感
強く五〇年たった今でも、クラス会の出席率は
良好です。

学園への提言をとのことですが、学校の現状、
学生諸君の気持ちも分からず、どうしようかと
思い悩んでいる時に、当時の邦字新聞、羅府新
報が配達されて来ました。羅府新報には「磁針」
という随筆欄があり、六月四日の題は世界の共
通語でした。この随筆の内容を借り、私の経験
を入れて、学生諸君があげている時間を使う選

択肢として、流暢でない英語のすすめを書きま
す。「磁針」の筆者によれば、日本の社長とベ
ネズエラの社長が二人の通訳（日本語から英語、
英語からスペイン語）を使っても微妙な点が伝
えられず、ついにベネズエラの社長がつかない
英語で話し始め、社長同士の流暢でない英語の
方が通訳を使うより良く通じたとあります。こ
の通訳の一人が「磁針」の筆者で、世界の共通
語は流暢な英語ではなく、流暢な英語は、米国
等の方言と思えばよいと言っております。

世界の共通語の主流、流暢でない英語に上達
する方法で気がついたことを書きます。
・天は人の上に人を作らず。人の下に人を作ら
ず。流暢さで劣等感、優越感を持たぬこと。
・耳が先。良い英語をラヂオやテープで聞く。
・若い勝ち。中高校生の中に始める。
・恥ずかしながらに話す。レッスン、自習。
・続ける。流暢になつてしまつたらそれよし。
国際化に備えて読む英語だけでなく話す英語に
も慣れ親しんで下さい。

（カリフォルニア大学名誉教授 工学博士）